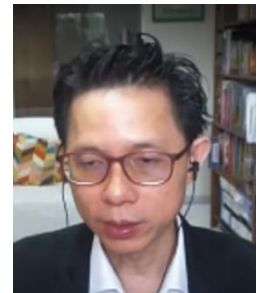


米中対立下におけるASEAN諸国の対応と日本への期待

—チュンISEASシニア・フェローを招きオンライン会合を開催—

2021年9月14日

講師：ウィリアム・チュン ISEASユソフ・イシャク研究所
シニア・フェロー



経済広報センターは9月14日、シンガポールのISEASユソフ・イシャク研究所（ISEAS）のシニア・フェローで地政学に詳しいウィリアム・チュン博士を招き、「米中対立下におけるASEAN諸国の対応と日本への期待」と題するオンライン会合を開催した。会員企業の幹部など約100名が参加した。

チュン氏は、バイデン政権が中国を最大の競合国と位置付けつつ、ASEAN諸国の事情も考慮し、インド太平洋戦略やQuad（日米豪印戦略対話）など多国間連携を軸とした対中外交を進めていることを評価。そのうえで、ASEAN諸国は、米中それぞれとの距離感を保ち、中国を標的とするのを避けていると述べ、日本も米中からの独立性を持つエージェンシーとして立ち位置を維持することに期待を示した。

また、2021年にISEASが実施した調査で、ASEAN諸国民の67%が日本を責任ある大国と評価するとともに、米、中、EU諸国以上に信頼し、リーダーシップの発揮を期待していることを紹介。ASEAN諸国は日本に対し、質の高いインフラ投資の継続やASEAN諸国への海上保安能力の支援、米国のCPTPP（環太平洋パートナーシップ協定に関する包括的及び先進的な協定）への再加入要請、自由で開かれたインド太平洋の緩やかな推進などで目に見える成果を期待していると説明した。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。